

3. 今後の課題

情報教育アドバイザーが今後活動する中で、前頁の問題を改善していくためには、情報教育アドバイザーの役割を考え情報教育アドバイザーの育成をしていく必要があります。

1. 打ち合わせへの対応

授業の中での活用をするために、情報教育アドバイザーも授業内容を理解し、具体的なアドバイスが出来るようになること。

打ち合わせの際は先生の方から教科・単元を絞って、授業の流れを説明してもらい、コンピュータを活用できる部分をアドバイスするようにする。短時間で打ち合わせを行い、授業内容を検討できるようになることが今後の情報教育アドバイザーに求められる。

2. 授業支援

先生と情報教育アドバイザーが1時間の授業をどのように進めていくかを事前に打ち合わせし、授業を行う。この場合、情報教育アドバイザーは支援者として授業に入るので、先生の方で授業を展開できることが前提。この授業支援は、事前に打ち合わせを行う中で機器の操作や授業の流れを把握できていれば、先生の方で1時間の授業を行う事が出来るようになるので情報教育アドバイザーは授業に入る必要がなくなる。情報教育アドバイザーが本当に授業支援者として、必要かどうかという点を考えることも重要。

3. 技術的な支援

テレビ会議・ビデオ編集・成績処理・コンピュータトラブルなどの専門的な知識をもった情報教育アドバイザーが少ないので専門的な技術支援ができる情報教育アドバイザーの養成。

情報教育アドバイザーが学校現場から求められるスキルは基本的なパソコンの知識から、各教科での活用、テレビ会議など、範囲もレベルも幅広くなってきており、全てに対応できる情報教育アドバイザーを養成することは大変です。情報教育アドバイザーの学校現場での位置づけを明確にし、授業に活用できるようにアドバイスする本来の情報教育アドバイザーの姿がようやく確立しつつある中で、コンピュータの授業ではなく、コンピュータを道具として活用する授業へ深く関わっていき先生との連携を図っていくことが今後の課題となります。